

課題名：“チームFTK”による
新しいスクール・ライフ実現への挑戦
ーポスト・コロナ期の教育情報化の推進と波及ー

発表者 校長 八幡 彩子
副校長 前川 美穂子



熊本大学アマビエ研究推進事業
課題名：“チームFTK”による
新しいスクール・ライフ実現への挑戦
ーポスト・コロナ期の教育情報化の推進と波及ー

研究グループ

大学院教育学研究科・教育学部附属特別支援学校校長(兼任)
八幡(谷口)彩子(代表)

附属特別支援学校(チームFTK)

大学院教育学研究科 塚本 光夫・干川 隆



熊本大学アマビエ研究推進事業とは？



熊本大学では、令和2年7月、疫病退散の妖怪アマビエにちなみ、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する課題解決をめざす研究を支援する「アマビエ研究推進事業」をスタートさせました。新型コロナウイルスのしくみや感染防止、社会変化のあり方などの研究課題とともに、教育に関する課題として、本校の研究が採択されました。



アマビエ研究推進事業

ストップコロナ、みんなでがんばろう



アマビエ研究推進事業課題一覧

新型コロナウイルスを理解する

新型コロナウイルスの感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	新型コロナウイルスと COVID-19感染のメカニ ズムの解明	COVID-19の ヒトへの感染 メカニズムの 解明	新型コロナウイルスの感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19 感染流行に 関する基礎的・応用的 知見の獲得
山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教

感染を防ぐ

COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用
山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教

新型コロナウイルスと教育

COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用
山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教

新型コロナウイルスと社会

COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用	COVID-19の感染 制御に関する新たな知見 の獲得と実践の活用
山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教	山崎 孝一 助教 山崎 孝一 助教



研究の目的：

新型コロナウイルス感染症第2波・第3波の到来に備え、オンライン授業・遠隔での学習・生活支援、教員の在宅ワークへのスマートな移行を可能にするポスト・コロナ期の新しいスクール・ライフを実現させるため、特別支援学校における教育情報化の課題を明らかにし、ハードとソフトの両面から環境整備を推進する。さらに、研究成果を、家庭・地域・大学との連携等の諸側面に波及させる。



目指す目標：

- ①特別支援学校において、感染症拡大防止に有効な教育情報化の環境整備
- ②附特の児童生徒・教員・保護者・教育実習生等のICT活用スキル・アップ
- ③オンライン授業や遠隔での学習・生活支援に有効な学習コンテンツの開発・蓄積と有効性の検証
- ④学校にテクノロジーを導入することにより、教育・研究を効率的に進める新しいスクール・ライフの実現



研究の方法・進め方

コロナ期（2020年3月～5月）：新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休校（約3ヶ月）

“チームFTK”による遠隔教育・在宅勤務等の取組

- ・児童生徒・家庭の状況把握、You TubeやZoomを活用した家庭学習と生活の支援
- ・在宅ワークの推進・Zoomによるテレビ会議の導入による教員の働き方改革 など



- 課題**
- ・家庭等におけるオンライン学習の支援
 - ・児童生徒のICTリテラシー・情報活用能力
 - ・知的障害のある児童生徒の実態・発達段階にあった遠隔教育用教材・学習コンテンツの不足
 - ・在宅ワークを可能とする業務改善・教育情報化

ポスト・コロナ期（第1段階）：第2波の到来に備え、教育情報化の推進により、児童生徒の学習・生活支援、効率的な教育実践・「働き方改革」等新しいスクール・ライフを可能にする環境整備

ハード面の環境整備

- ・オンライン授業やスムーズな在宅ワークへの移行を可能にするICT機器の検討・導入
- ・児童生徒の心身の状況や学習状況、資質・能力の形成状況等を効率的に把握できる教育情報化のシステムの検討・整備
- ・校務を効率化するシステムの検討・導入



ソフト面の環境整備

- ・児童生徒のICTリテラシー・情報活用能力の育成
- ・児童生徒の実態・発達段階にあった遠隔教育用教材・学習コンテンツの開発と有効性の検証
- ・遠隔教育と児童生徒の心のケアの検討
- ・教員のICT活用能力のスキルアップ
- ・新しい働き方を可能にする校務のあり方の検討

ポスト・コロナ期（第2段階）：第1段階の研究成果の、家庭・地域・大学（他の附属学校園を含む）など、学校内外への波及・情報発信

- ・児童生徒の家庭等でのオンライン授業を支援するスキル向上（学校と家庭等との連携）
- ・大学と連携した教育情報化による特別支援教育研究の推進
- ・教育実習生のICT活用能力の向上
- ・地域への情報発信

教育情報化による新しいスクール・ライフ創造の戦略



目標の到達状況①

目標Ⅰ：特別支援学校において、感染症拡大防止に有効な教育情報化の環境整備は整えられたか

年		2017	2018	2019	2020										2021
月		11		1	1	2	3	4	5	6		10	11		3
							3/2～ 臨時休校			6/1～学校再開					
通信環境		大学LAN(有線)/大学Wi-Fi					通信環境の整備①GIGA	大学LAN(有線)/大学Wi-Fi							
パソコン	教員用	1人1台校務用ノート型パソコン等											6 アマビエ		
	教育用	1人1台校務用ノート型パソコン等													
タブレット端末	教員用 31	5 文科省委託 事業費			5 運営費	14 後援会		4/14 タブレット端末配布			15 学校保健特別 対策事業費				
	小中学 部共用 36			11 LTE接続可能 熊本市, 熊大, 県立大, NTTドコモとのICT化に 関する連携協定							9 アマビエ				27 GIGA
	高等部				16 就学奨励費				10 就学奨励費						

通信環境：断続的な通信状況あり

教員パソコン, タブレット端末, 教育用パソコン：ほぼ整備完了

高等部：1人1台端末達成：小・中学部1人1/2台(今年度末までに整備完了予定)



目標の到達状況②教員

目標2:本校の児童生徒・教員・保護者・教育実習生等のICT活用のスキル・アップを図ることができたか

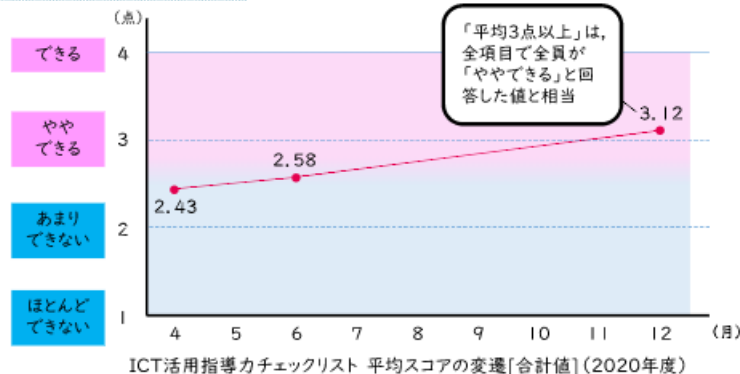
	2020年2月以前	3月	4月	5月	6月	9月・10月
遠隔教育に関する動き			4/7～ 大学でZoom使用始まる 4/10 遠隔教育推進プロジェクト 4/14 タブレット端末の配布			教育実習用ノートパソコンとWi-Fiルータ調達
Zoom 		3/4 体験 3/11 研修 中学部(後藤)Zoom朝の会先行実践	4/16～Zoomを使った校内研修・会議・研修等が始まる 4/14～小学部Zoom朝の会 4/20～高等部Zoom朝の会 4/27～中学部Zoom朝の会 5/12～高等部ミニ授業			児童生徒の学習の様子を動画等で家庭等と共有・活用
YouTube 	高等部(奥田)授業動画と家庭実践動画配信		4/9 YouTubeチャンネル開設(限定34本, 一般公開10本)			中学部:エクササイズ(ストレッチ・ダンス等)配信
ロイロノート・スクール 			下旬ロイロ用ID等配布	5/13・14 ロイロノートの研修		ロイロノートの活用始まる
Microsoft Teams 			中旬～ID配布・活用始まる			
通信手段	メール・Webページ FTKポータル・共有フォルダ(校内限定)		中旬以降在宅勤務・遠隔会議用にProselfの活用始まる			
プログラミング	中学部(後藤):Viscuit等の実践					小学部:プログラミングツール(キューベット)を用いた実践
その他	高等部(田口)端末(keynote)を用いた公開授業 				NHK for School 	



目標の到達状況②教員のICT活用指導力の向上

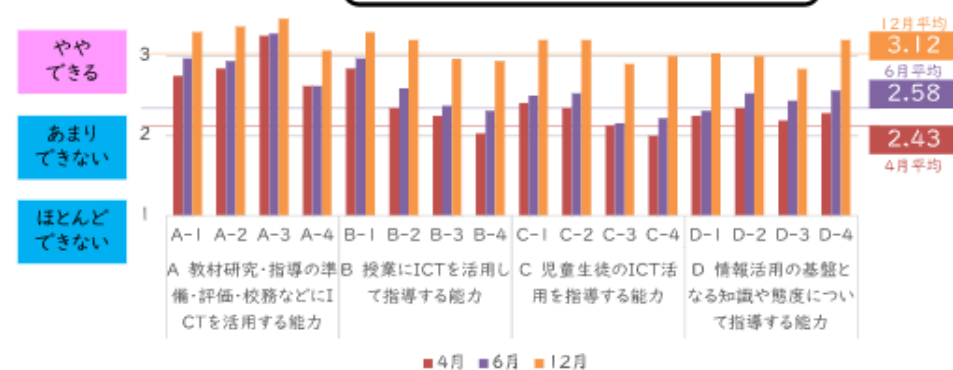
全項目合計の全体平均

本校全教員の合計点数の平均値を合わせた値の推移です。



全項目合計の全体平均

全16項目中、すべての項目でスコアが伸びた。特に、学校再開後(6月から12月にかけて)顕著な伸びが見られた。



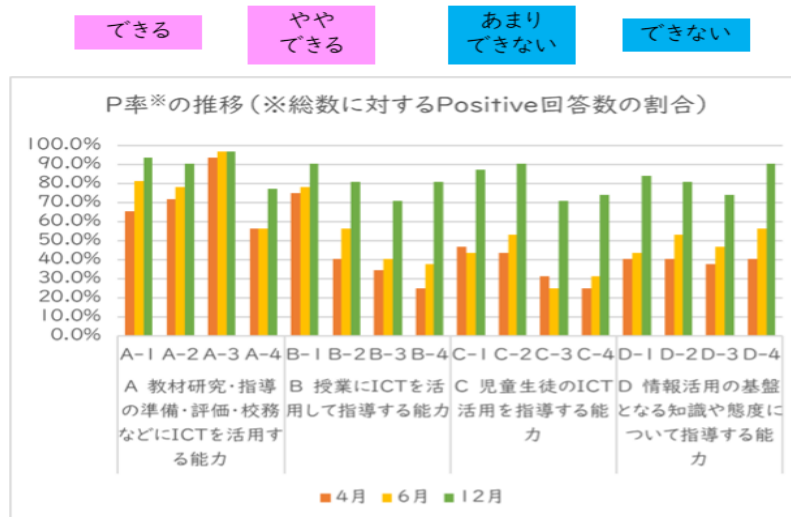
ICT活用指導力チェックリスト 平均スコアの変遷[項目別] (2020年度)

コロナ期の臨時休校期間中(3月~5月)の教育情報化における学習・研修・実践を基盤に、ポスト・コロナ期(6月~)の授業実践等を積み重ねる中で、ICT活用指導力が向上している。

熊本大学教育学部附属特別支援学校
『令和2年度 研究報告』より

Positive回答

Negative回答



教師のICTスキルの向上が見られた(顕著な変化「B,C,Dの伸び」「6月→12月」)



目標の到達状況②児童生徒

	研究発表会での事例発表等			端末(ICT)を活用して・・・
小学部	5・6年「自立活動」 プログラミング ツール(キューベット) を活用したプログ ラミング教育	1・2年 プログラミン グ教育の基 礎となる素地 的学習	3・4年 タブレット端末 (ロイロノート) を活用した情 報収集と活用	情報収集し判断する 目的を達成する手順・見 通し・段取り 相手にわかりやすく伝え る(コミュニケーション力)など ↓
中学部	Kグループ 「国語」 ロイロノート の活用によ る「朗読」の 振り返り	保健体育 ストレッチ動画の活用 1年Yくん ICTの効 果的活用 3年Yくん ロアッソ熊本 掲示板によ る情報発信		1年・3年 ICT を活用した家 庭・保護者と の連携・協働 自分の学びの振り返り (見える化・メタ化)/表現 力の向上/動画を活用し て楽しくエクササイズ 情報を収集しまとめる 家庭との連携・協働など ↓
高等部	1年「家庭」 ICTを活用して 問題解決的 な学習に取り 組むくん	特設「ICT」 2年「職業」等 教科等の連携・接客ア プリの活用により職業 的スキル向上		NIE × 国語・ 音楽・総合 × ICT 表現力を高 め、社会とつ ながる 学びの充実・問題解決 情報収集・比較・判断 レポートにまとめ発表 情報発信・表現力up 職業的スキルup 社会とつながる など

詳細は、研究報告、研究発表会の分科会、ポスター発表等をご覧ください。



目標の到達状況②教育実習生

教室



実習生



遠隔でダンスの実演

生徒の手元を
Zoomで映し、
遠隔で指導・支援



ロイロノートで課題を即座に返却

「オンライン」では難しいこと
第1位 教育実習
『令和2年度 研究報告』



目標の到達状況③

目標3:オンライン授業や遠隔での
学習・生活支援に有効な学習コンテ
ンツの開発・蓄積と有効性の検証

第2波・第3波へのスムーズな対応
臨時休校時の遠隔授業への対応

児童生徒に濃厚接触者の確認

通常 学校での授業		学部閉鎖 (2日間)	通常＋濃厚接触者の自宅 待機(2週間)
教員		自宅: リモートワーク 自宅でできる仕事 授業の準備等	 学校で授業 遠隔授業 (オンライン)
児童生徒		自宅 	学校 
			自宅で授業 に参加  



目標の到達状況④ 教育情報化の成果は?①ペーパーレス

目標4: 学校にテクノロジーを導入することにより, 教育・研究を効率的に進める新しいスクール・ライフを実現できたか

before

令和元年度1年間に校長室の机上に配付された文書(冊子体は除く)を綴じたファイル



after

令和2年4月～12月に校長室の机上に配付された文書(冊子体は除く)を綴じたファイル

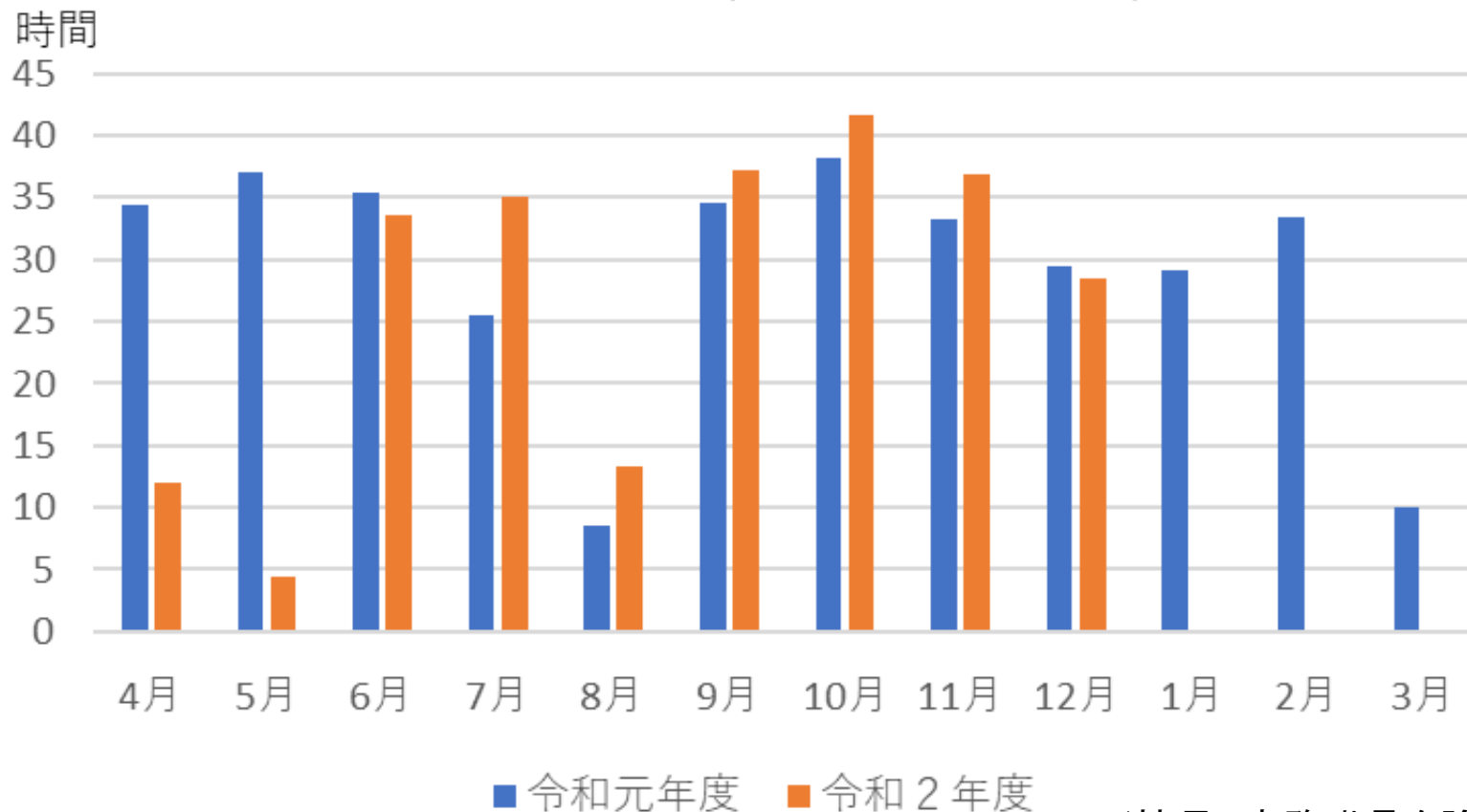


行事が減ったことによる配布物の減少／遠隔会議資料の電子化(メール, Proself, Microsoft Teamsの利用)により, 紙媒体で書類を保管する必要性の減少



教育情報化 (ICT化) は働き方改革 (勤務時間の削減) をもたらすか?

時間外勤務時間 (1人あたり月平均)



(校長, 事務職員を除く)

時間外勤務時間(1人あたり月平均)は, 令和元年度29時間, 令和2年度(4月~12月)27時間と2時間減っているが, 臨時休業期間を除く6月~12月で比較すると, 令和元年度29時間, 令和2年度32時間と3時間増えている。



さいごに：新しいスクール・ライフとは

教育情報化

感染症に強い学校づくり

- ・全校集会→クラス単位へ
- ・遠隔授業・オンライン授業
- ・マスク, 3密回避, 検温・手洗い, 換気など学校での過ごし方
- ・「いごちのよい学校」

教科等の学びの充実

- ・教科指導の効果を高める
- ・情報活用能力の育成を図る など

個別最適な学び

- ・特別な支援を必要とする児童生徒の自立を高めるなど個々の実態等に応じた支援

教育の効率化

- ・学びをつなぐ。学校・家庭・地域・大学・・・
- ・学びのポートフォリオ・評価
- ・時間や場所にこだわらない学び

働き方改革

- ・校務の効率化 端末の効果的活用
- ・教育情報へのアクセスがいつでも、どこでも、授業準備等の仕事ができる。

全校朝会
副校長先生の話

学校が再開して
6日目

生活リズムは
整ったかな？



いごちのよい がっこう

- ・あたたかな ことば
- ・おもいやりを もって



これからの学校の姿について、ご意見をお聞かせください。



後藤匡敬「Withコロナ, Afterコロナ時代を見据えた知的障害特別支援学校における新しい教育の形の模索」『令和2年度日本教育大学協会研究集会発表資料集』

(2020)pp.356-359

小田貴史「知的障害特別支援学校小学部における「オンライン朝の会」の実践」『同上』pp.360-363

八幡彩子「熊大特別支援学校における教育情報化（ICT化）の推進と波及～熊大アマビエ研究推進事業採択課題の紹介を中心に～」(第5回これからの附属学校のあり方を考える協議会/第5分科会ICT活用分科会：話題提供)(2020.11.21)

芳武敏雄「オンライン教育実習の取組 令和2年度特別支援教育教員養成課程3年次実習(Ⅲ)を通して」(本校内部資料)(2020.9.28)

倉田沙耶香「大学との共同研究の推進 Microsoft Teamsの活用」(第1回アマビエ研究会資料)(2020.8.21)

熊本大学教育学部附属特別支援学校『令和2年度研究報告』(2021)

本校ホームページ <https://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~futoku/>

熊本大学アマビエ研究推進事業 <https://poie.kumamoto-u.ac.jp/amabie>

ご清聴ありがとうございました。

